

品質一覧表

ページ	項目	細項目	ページ	項目	細項目	ページ	項目	細項目
別紙－３③	コンクリート構造物工事	【共通・無筋】【鉄筋】に分類、二次製品構造物を別項目	別紙－３⑪	法面工事	【共通】【種子吹付工、客土吹付工、厚層基材吹付工関係】【コンクリート又はモルタル吹付工関係】【現場打法枠工関係】【アンカー工】に分類	別紙－３⑲	維持修繕工事	【（防雪）柵修繕工事】【舗装道維持修繕工事】【道路維持修繕工事】【河床整形工事】に分類
別紙－３④	コンクリート二次製品構造物工事	【共通】【擁壁類（補強擁壁は除く）】【用排水施設】【管水路工事】に分類	別紙－３⑫	基礎工工事	【共通】【深礎工】【既製杭関係（コンクリート・鋼管・鋼管井筒等）】【場所打ち杭関係】【ケーソン】に分類、サンドマットは土工【盛土・築堤】に、【地盤改良】は別項目	別紙－３⑳	港湾築造工事	【共通】【浚渫・床掘関係】【地盤改良関係】【マット・捨て石及び均し関係】【本体：杭及び矢板、控工関係】【本体：ケーソン関係、ブロック関係】【防波堤工事】【上部工】【中詰、被覆工などの基礎工】に分類
別紙－３⑤	土工事	【共通】【切土、掘削等】【盛土・築堤等】【補強盛土】に分類	別紙－３⑬	地盤改良工事	【共通】【薬液注入工】【高圧噴射攪拌工】に分類	別紙－３㉑	道路工事	【共通】【路床・路盤工・路床安定処理】
別紙－３⑥	護岸・根固・水制工事	【共通】【護岸】【かごマット工】【根固・水制】に分類	別紙－３⑭	コンクリート橋工事（PC及びRCを対象）	【共通】【製作関係】【架設関係】に分類	別紙－３㉒	歩道工事	【共通】【路盤・舗装工】【付属構造物等】
別紙－３⑦	鋼橋工事	【工場製作関係】【架設関係】に分類	別紙－３⑮	塗装工事	－	別紙－３㉓	消雪工事	【削井工・取水施設工】【散水工】
別紙－３⑧	砂防構造物及び地すべり防止工事	【共通】【砂防構造物工事に適用】【根留め工】【集水井工】【抑止杭工】【承水路工・排水路工】【水抜きポーリング工】【落石・雪崩防止工】に分類	別紙－３⑯	トンネル工事	【共通・無筋】【掘削】【支保工】【覆工】に分類	別紙－３㉔	下水道工事	【共通】【開削工】【推進工】
別紙－３⑨	舗装工事	【路床・路盤工関係】【アスファルト舗装関係】【コンクリート舗装関係】【橋面舗装】に分類	別紙－３⑰	公園・植栽工事	【共通】【舗装・表層工】【植栽工】【付帯設備工】に分類	別紙－３㉕	砂防工事（本体：ダブルウォール 前提・側壁：コンクリート構造物）	【共通】【砂防構造物工事に適用】【ダブルウォール工】
別紙－３⑩	海岸工事	【共通】【護岸工・消波工・離岸堤】【突堤工】【上部工】【中詰、被覆工など基礎工】と仕分け	別紙－３⑱	防護柵（網）・標識・区画線等設置工事	【共通】【防護柵】【視線誘導標・道路標識】【区画線】【照明灯】に分類	別紙－３㉖	その他工事	

（品質の評定に際し）

評価は、主たる工種で評定します。主たる工種は、概ね６０％以上とします。

従って、主たる工種の割合が、概ね４０％以上６０％未満の場合は、２工種で、概ね４０％未満の場合は３工種で評定することができます。

工種は、最大３工種で、２工種の算定は、次のようになります。

（例）２工種の場合、（１工種目のＡ／Ｂ＋２工種目のＣ／Ｄ）＝（Ａ＋Ｃ）／（Ｂ＋Ｄ）とし、その結果を評価値とします。

工事成績採点の考查項目の考查項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の・に○マークを記入する。

考 査 項 目	細 別	a	a'	b	b'	c	d	e																																							
3. 出来形及び出来ばえ	護岸・根固・水制工事	☆ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ （関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験） ※ ばらつきの判断基準は別紙－4参照					品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがあり、ばらつきが大きい。	品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。																																							
Ⅱ. 品質		☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。																																													
		【評価対象項目】 【共通】 <ul style="list-style-type: none">・施工基面が平滑に仕上がり、所定の強度が確保されている。（出来上がりが波打っていない）・二次製品の受け取りを現場代理人などの責任ある者が、製品を確認し受け取り、損傷のないもので施工されている。・二次製品規格の現場チェックがなされている。（土木部汎用二次製品は除く）・基礎工において、掘り過ぎが無く施工していることが確認できる。・施工にあたって、床堀箇所の湧水及び滞水等は、排除して施工していることが確認できる。 【護岸】 <ul style="list-style-type: none">・裏込材、胴込めコンクリートが充てんまたは締め固めが充分で、空隙が生じていない。・緑化ブロック・石積み（張）・法枠・かごマット等で材料のかみ合わせ又は連結が適切で、裏込材の吸い出しの恐れがない。・護岸工の端部や曲線部の処理・強度・水密性が適切である。・遮水シートが上流側が上になるように所定の幅で重ね合わせられ、端部処理が適切である。・植生工で、植生の種類、品質、配合、施工後の養生が適切である。・矢板の品質がミルシート等で確認できる。・矢板打ち込みは、導材を設置し、ぶれ、よじれ、倒れがなく、かみ合わせが適切である。・材料の品質規格証明書等が整備されている。・製品の品質管理が適切に行われ、納入月日が確認できる。・ブロックマットのアンカーピンの配置、打ち込みが適切になされている。・ブロックマットは、所定の幅で重ねられている。・丁張りを2重、3重に設けるなど、法勾配、裏込め材の厚さの確保のため細心の注意をはらっている。・鉄線蛇籠工の使用では、詰め石のために籠が変形していないことが確認できる。・口締めの際し、鉄筋はよくねじれ堅く締められている。・有害なクラックが無い。 【かごマット工】 <ul style="list-style-type: none">・吸出し防止材の品質が確保され、護岸の下面に適切に設置されている。・護岸端部において、流水によるめくれを防止するために、必要に応じて対策を講じているのが確認できる。・中詰め材は、設計に対して、中詰石の量が適切であることが確認でき、できるだけ空隙を少なく施工されている。・かごマットの中詰用ぐり石には、かごの厚さが30cmの場合は5cm～15cm、かごの厚さが50cmの場合は、15cm～20cmのもので、網目より大きな天然石または割ぐり石を使用していることが確認できる。・線材は品質管理試験の確認を行い、網線材の端末は1.5回以上巻き式によって結束し線端末は内面に向け施工されている。・最上下流端の仕切網の枠線と底網枠線の結合が枠線全部にコイル掛けを行っていることが確認できる。（コイルを色で識別）（多段積タイプ）・外周部は、接続長の全長を連結していることが確認できる。（平張タイプ） 【根固・水制】 <ul style="list-style-type: none">・根固工、水制工、沈床工、捨石工等で、材料の連結又はかみ合わせが適切である。・設置間隔、高さ等が設計図書どおりに施工されている。・鉄線等での結束では、ゆるみなく緊張していることが確認できる。・コンクリートブロックの転置、仮置に際し、強度確認を行っている。・設置されたブロックに破損や補修痕のないことが確認できる。・異形ブロック等を現場で製作のものは、型枠搬入時に仮組等を実施し、寸法・歪み・傷等をチェックしている。・異形ブロックの製作で豆板、かけ、型枠の目違いが規定の範囲であることが確認できる。					品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。		品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補（手直し）指示を行った。																																						
		上記該当あれば……d					上記該当あれば……e																																								
		<div>①「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。</div> <div>②評価対象外項目の削除後は、削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値（評価値）で評価する。</div> <div>③評価値（ %）＝該当項目数（ ）／評価対象項目数（ ）</div> <div>④なお、削除後の評価対象項目数が3項目以下の場合はc評価とする。</div> <table><tr><th colspan="2"></th><th colspan="3">ばらつきで判断可能</th><th rowspan="2">ばらつきで判断不可能</th></tr><tr><th colspan="2"></th><th>ばらつきが小さい</th><th>ばらついている</th><th>ばらつきが大きい</th></tr><tr><th colspan="2"></th><th>50%以下</th><th>80%以下</th><th>80%を超える</th><th></th></tr><tr><td rowspan="4">評価値</td><td>90%以上</td><td>a</td><td>a'</td><td>b</td><td>b</td></tr><tr><td>75%以上90%未満</td><td>a'</td><td>b</td><td>b'</td><td>b'</td></tr><tr><td>60%以上75%未満</td><td>b</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td></tr><tr><td>60%未満</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td><td>c</td></tr></table>							ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能			ばらつきが小さい	ばらついている	ばらつきが大きい			50%以下	80%以下	80%を超える		評価値	90%以上	a	a'	b	b	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'	60%以上75%未満	b	b'	c	c	60%未満	b'	c	c	c			
		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能																																										
		ばらつきが小さい	ばらついている	ばらつきが大きい																																											
		50%以下	80%以下	80%を超える																																											
評価値	90%以上	a	a'	b	b																																										
	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'																																										
	60%以上75%未満	b	b'	c	c																																										
	60%未満	b'	c	c	c																																										
		注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目（評価値）だけで評価する。																																													

工事成績採点の審査項目の審査項目別運用表

〔記入方法〕該当する項目の・に○マークを記入する。								(検 査 職 員)	
考 査 項 目	細 別	a	a'	b	b'	c	d	e	
3. 出来形及び出来ばえ II. 品質	砂防構造物及び地すべり防止工事	☆ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞（関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験） ※ ばらつきの判断基準は別紙一4参照 ☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがあり、ばらつきが大きい。	品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。	
		【評価対象項目】 【共 通】 <ul style="list-style-type: none">・地山との取り合わせが適切に行われている。・施工基面が平滑に仕上げられ、所定の強度が確保されている。（出来上がりが波打っていない）・材料の品質規定証明書が整備されている。 【砂防構造物工事に適用】 <ul style="list-style-type: none">・設計図書に基づくコンクリートの配合試験または試験練りが行われており、適切なコンクリートの規格（強度・w/c・最大骨材粒径・塩化物総量等）が確認できる。（JIS A-5308以外の生コンを使用する場合）・コンクリート打込み時の必要な供試体を採取し、強度・スランプ・空気量等が確認できる。（JIS A-5308以外の生コンを使用する場合）・施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打込み時の投入高さ、パイプレーターによる締固、養生方法等、適切に行っている。（寒中及び暑中コンクリート等を含む）・型枠、支保工の組立が適正で、コンクリート打込み後、取り外し時期がコンクリート強度等で適正に管理されている。・コンクリートの打ち直しや補修の痕跡がない。・コンクリート打込み時に雨水やわき水が適切に処理されている。・コンクリートの現場養生用の供試体が当該現場のものであることが確認できる。・コンクリート打込み前に打継ぎ目処理を適切に行っていることが確認できる。・コンクリート及びセメントコンクリート製品の使用にあたりアルカリ骨材反応抑制対策の適合を確認している。（高炉B種・C種のセメントを使用したコンクリートの場合は評価対象から除外する）・コンクリート打込み前に、単位水量試験または水セメント比試験を実施している。（平成20年3月14日付技第1037号）・コンクリート打込みまでの鉄筋の保管管理が適正であることが確認できる。・鉄筋の組立・加工が適切であることが確認できる。・基礎地盤が確認され、適切に基盤面が仕上げられていることが確認できる。・掘削法面勾配が、正確に施工されていることが確認できる。・排水パイプ、吸い出し防止材が適切に施工されていることが確認できる。・床固め及び帯工等との取り付け部が適切に施工されている。・流路工の付属物の施工が適切に施工されている。・リフトスケジュールが作成され、コンクリート打設時期・養生が適切に行われている。・有害なクラックが無い。 【根留め工】 <ul style="list-style-type: none">・かご工の積み方が適正で、変形がなく、垂直に立ち上がっている。・かごは芋目地にならないよう交互に積み上げられている。・層積みの線が中だるみなく、水平に整っている。・口締めの際じ、鉄筋はよくねじれ強く締められている。・かごマット・蛇籠の詰め石の施工が適切で空隙が生じていない。・かごマット・蛇籠の中詰め石が仕様書に定められた大きさに施工されている。 【集水井工（ライナープレート工法）】 <ul style="list-style-type: none">・地すべり状況を把握し、掘削中の地盤構造、湧水の記録が整備されている。・ライナープレート等の組立にあたり、偏心と歪みに配慮し、施工を行っている。・ライナープレート等と地山との隙間が少なくなるように施工を行っている。・ライナープレート等を確実に固定できるように掘削が入念に施工され、ライナープレート端に触れることなく、鉛直方向に正確に施工されていることが確認できる。・ライナープレート等が仕様書に示す深さごとに1枚ずつ実施されていることが確認できる。・ライナープレート等の接続（ボルトと締付）が仕様書に示すとおりに実施されている。 【集水井工（自重沈下工法・セグメント工法）】 <ul style="list-style-type: none">・地すべり状況を把握し、掘削中の地盤構造、湧水の記録が整備されている。・発進工の基本となる井筒発進工の底面は、水平かつ平坦に仕上げられている。・ブロックの組み立てにあたり、製品仕様のとおりボルト締めが確実に施工されている。・井筒内の掘削作業にあたり、不当沈下による傾きを防止するため、掘削は中心部から外側に掘り進み、掘りすぎないように注意して施工されている。・偏心に配慮し、水平・鉛直に対する施工管理を常に行っている。・沈下作業にあたり、地山との摩擦力を軽減するための沈下砂利が均一に回るように施工されている。・縦方向接合鉄筋を挿入する際に鉄筋の所定ラップ長が取れているか確認できる。・縦方向接合鉄筋挿入孔に充填するセメントミルク施工に際し、所定の規格を満足しているか確認できる。・井筒頭部に施工する固定コンクリートについて、水平かつ平坦に施工されている。					品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補（手直し）指示を行った。	

工事成績採点の考查項目の考查項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の・に○マークを記入する。										
考 査 項 目		細 別		a	a'	b	b'	c	d	e
3. 出来形 及び 出来ばえ	II. 品質	舗装工事	☆ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ （関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験） ※ ばらつきの判断基準は別紙－4参照 ☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。						品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがあり、ばらつきが大きい。	品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。
			【評価対象項目】 【路床・路盤工関係】 <ul style="list-style-type: none">路床・路盤工のブルフローリングを行っており、沈下等の不具合があった場合は、良質の材料と入れ替えるなどの対策をおこなっている。軟弱地盤など路床工にとって不適合なものに対し、対応策が取られている。材料が分離しないようにおろす位置、方法が適正な方法で行われている。 <ul style="list-style-type: none">路床・路盤工の密度管理が適切に行われている。材料の品質証明書が整理されている。掘削面の凹凸を除去し、均一な路床安定処理工が実施されている。舗装の出来あがりを左右する路盤工が平坦に出来上がっていることが確認できる。設計図書に基づき、所定の厚さ管理が行われ、かつ品質管理が実施されている。構造物とのすり付けが適正に実施され、ゆるんだところがない。設計図書通りの施工に、水溜まりなく、表面仕上げにキャタピラの跡がなく、平坦に仕上がっている。構造物周辺の締め固め等で振動ロー等による入念な施工が実施されている。設計図書に定められた試験方法でCBR値を測定していることが確認できる。 【アスファルト舗装関係】 <ul style="list-style-type: none">設計図書に基づく混合物の配合設計及び試験練りが行われており、適切な混合物の規格が確認できる。（アスファルト混合物の事前審査制度の適用工事は除く）混合物の温度管理が、プラント出荷時・現場到着時・舗設時等で整理・記録されている。舗設後、直ちに供用する必要のある現場で、交通解放時の温度管理を適切に行っている。舗設の各層の継ぎ目が仕様書に定められた数値以上にすらししていることが確認できる。目地の処理が仕様書に定められたとおりであることが確認できる。気象条件に適した混合物の運搬方法、舗設作業（締め固め等）の配慮が行われている。乳剤が均一に散布され、第3者への飛散防止対策、及び構造物への付着などに細心の注意が払われている。アスカープの施工において細かな配慮がなされ、丁寧に施工されている。路肩処理、縁端処理の施工において細やかな配慮がなされ、丁寧に施工されている。舗装工の施工にあたって、上層路盤面の浮き石などの有害物を除去していることが確認できる。密度管理が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。アスファルト混合物の目視による外観検査を随時実施しており、記録に整理されている。 【コンクリート舗装関係】 <ul style="list-style-type: none">設計図書に基づくコンクリートの配合試験または試験練りが行われており、適切なコンクリートの規格（強度・w/c・最大骨材粒径・塩化物総量等）が確認できる。（JIS A-5308以外の生コンを使用する場合）コンクリート打込み時の必要な供試体を採取し、強度・スランプ・空気量等が確認できる。（JIS A-5308以外の生コンを使用する場合）施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打込み時の投入高さ、パイプレーターによる締固、養生方法等、適切に行っている。（寒中及び暑中コンクリート等を含む）コンクリートの現場養生用の供試体が当該現場のものであることが確認できる。コンクリート及びセメントコンクリート製品の使用にあたりアルカリ骨材反応抑制対策の適合を確認している。 （高炉B種・C種のセメントを使用したコンクリートの場合は評価対象から除外する）コンクリート打込み前に、単位水量試験または水セメント比試験を実施している。（平成20年3月14日付技第1037号）コンクリート打込みまでのチェアー、タンバー等の保管管理が適正であることが確認できる。コンクリート版の4隅、スリップバー、タンバー等の付近は、分離したコンクリートが集まらないようにしている。コンクリート舗装の表面は粗面仕上げで、かつ平坦、緻密、堅硬な表面仕上げになっている。コンクリート舗装の表面仕上げで縦方向に凹凸がない。目地の隣り合わせの舗装面に段差がない。舗装工の施工に先だって、上層路盤面の浮き石等の有害物を除去してから施工していることが確認できる。材料が分離しないようコンクリートを敷均していることが確認できる。						品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補（手直し）指示を行った。
									上記該当あれば……d	上記該当あれば……e

工事成績採点の考查項目の考查項目別運用表

〔記入方法〕該当する項目の・に○マークを記入する。

(検 査 職 員)

考 査 項 目	細 別	a	a'	b	b'	c	d	e																																	
3. 出来形及び出来ばえ	舗装工事	☆ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞（関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験） ※ ばらつきの判断基準は別紙－4 参照					品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがあり、ばらつきが大きい。	品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。																																	
Ⅱ. 品質		☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。																																							
【橋面舗装】 <ul style="list-style-type: none">橋面舗装では、舗装に先駆け行う防水工においてむらがなく、橋面の防水前、及び施工後の測定を行っている。水の浸入を防止する舗装端部の処理が適正に施工されている。防水シートは、橋面部を洗浄し、水分計等で床版が十分に乾燥したことを確認した後に付着を適切に行っているわれている。舗装コアを採取しない場合は、別途適切な方法で密度管理を行っている。床版工のスペーサーは、本体コンクリートと同等の品質で1 m2当たり4個以上の設置が確認できる。																																									
<div>①「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ②評価対象外項目の削除後は、削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値（評価値）で評価する。 ③評価値（ % ）＝該当項目数（ ）／評価対象項目数（ ）</div>																																									
<table><tr><th colspan="2" rowspan="3"></th><th colspan="3">ばらつきで判断可能</th><th rowspan="3">ばらつきで判断不可能</th></tr><tr><th>ばらつきが小さい</th><th>ばらついている</th><th>ばらつきが大きい</th></tr><tr><th>50%以下</th><th>80%以下</th><th>80%を超える</th></tr><tr><td rowspan="4">評価値</td><td>90%以上</td><td>a</td><td>a'</td><td>b</td><td>b</td></tr><tr><td>75%以上90%未満</td><td>a'</td><td>b</td><td>b'</td><td>b'</td></tr><tr><td>60%以上75%未満</td><td>b</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td></tr><tr><td>60%未満</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td><td>c</td></tr></table>											ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能	ばらつきが小さい	ばらついている	ばらつきが大きい	50%以下	80%以下	80%を超える	評価値	90%以上	a	a'	b	b	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'	60%以上75%未満	b	b'	c	c	60%未満	b'	c	c	c
		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能																																				
		ばらつきが小さい	ばらついている	ばらつきが大きい																																					
		50%以下	80%以下	80%を超える																																					
評価値	90%以上	a	a'	b	b																																				
	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'																																				
	60%以上75%未満	b	b'	c	c																																				
	60%未満	b'	c	c	c																																				
注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目（評価値）だけで評価する。																																									

工事成績採点の考查項目の考查項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の・に○マークを記入する。

考 査 項 目	細 別	a	a'	b	b'	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	海岸工事	☆ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ （関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験） ※ ばらつきの判断基準は別紙ー4 参照 ☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがあり、ばらつきが大きい。	品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。
		<div>【評価対象項目】 【共通】<ul style="list-style-type: none">設計図書に基づくコンクリートの配合試験または試験練りが行われており、適切なコンクリートの規格（強度・w/c・最大骨材粒径・塩化物総量等）が確認できる。（JIS A-5308以外の生コンを使用する場合）コンクリート打込み時の必要な供試体を採取し、強度・スランプ・空気量等が確認できる。（JIS A-5308以外の生コンを使用する場合）施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打込み時の投入高さ、パイプレーターによる締固、養生方法等、適切に行っている。（寒中及び暑中コンクリート等を含む）型枠、支保工の組立が適正で、コンクリート打込み後、取り外し時期がコンクリート強度等で適正に管理されている。コンクリートの打ち直しや補修の痕跡がない。コンクリート打込み時に雨水やわき水が適切に処理されている。コンクリートの現場養生用の供試体が当該現場のものであることが確認できる。コンクリート打込み前に打継ぎ目処理を適切に行っていることが確認できる。コンクリート及びセメントコンクリート製品の使用にあたりアルカリ骨材反応抑制対策の適合を確認している。 （高炉B種・C種のセメントを使用したコンクリートの場合は評価対象から除外する）コンクリート打設前に、単位水量試験または水セメント比試験を実施している。（平成20年3月14日付技第1037号）施工基面が平坦に仕上げられている。材料の規格・品質が試験成績表等で確認できる。海岸部に保管する型枠のセパレート、組立の鉄筋等は、錆防止対策を行っている。濁り防止等環境保全に十分注意して施工していることが確認できる。有害なクラックが無い。工事期間中、1 日1 回は潮位観測を実施して記録していることが確認できる。（ブロック a_w台風などの異常気象に備えて施工前に避難場所の確保及び退避設備の対策を講じていることが確認できる。</div> <div>【護岸・消波工事・離岸堤】<ul style="list-style-type: none">コンクリートブロックの転置、仮置に際し、強度確認を行っている。コンクリートブロックの仮置きで転倒、崩壊等の恐れがない。設置されたブロックに破損や補修痕のいないことが確認できる。砂地や岩盤への根入れが適正で、不等沈下や背後土砂のバイピング等がない。上部構造物の継ぎ目から背後土砂の流出がないことが確認できる。異形ブロック等を現場で製作のものは、型枠搬入時に仮組等を実施し、寸法・歪み・傷等をチェックしている。異形ブロックの製作で豆板、かけ、型枠の目違いが規定の範囲であることが確認できる。乱積でコンクリートブロック相互のかみ合わせがよく、孤立したブロックがないことが確認できる。</div> <div>【突堤工事】<ul style="list-style-type: none">捨石基礎の均し面が平坦に仕上げられていることが確認できる。捨石の基盤に敷設する帆布は、重ね合わせなどが適切に行われている。方塊ブロックが垂直に据えられていることが確認できる。捨石基礎は、大小の石でかみ合わせが良く、均し面にゆりみがないよう施工されていることが確認できる。岩層の基礎工は、岩の状態を把握し、表面の藻、砂などを除去した上で施工されている。水中コンクリートの品質規格が確認できる。水中コンクリートの打設に際し、海水混入の防止策を実施している。</div> <div>【上部工】<ul style="list-style-type: none">施工の打ち継ぎ目では、位置が適正で、コンクリート打設前の清掃等が適切に行われている。</div> <div>【中詰、被覆などの基礎工】<ul style="list-style-type: none">中詰めに使用する石の計量が適切であることが確認できる。基礎工は、大小の石でかみ合わせ良く、均し面にゆりみがないよう施工されていることが確認できる。基礎に敷設する帆布等の破れがなく、所定の重ねが写真記録等により確認できる。捨て石基礎の均し面が平坦に仕上げられていることが確認できる。</div>						

 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。 | 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補（手直し）指示を行った。 || Ⅱ. 品質 | | | | | | | 上記該当あれば……d | 上記該当あれば……e |

①「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。
②評価対象外項目の削除後は、削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値（評価値）で評価する。
③評価値（ %）＝該当項目数（ ）／評価対象項目数（ ）

評価値	90%以上	a	a'	b	b'
	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'
	60%以上75%未満	b	b'	c	c
	60%未満	b'	c	c	c

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目（評価値）だけで評価する。

工事成績採点の審査項目の審査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の・に○マークを記入する。

考 査 項 目	細 別	a	a'	b	b'	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	法面工事	☆ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞（関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験） ※ ばらつきの判断基準は別紙－4参照 ☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがあり、ばらつきが大きい。	品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。
		【評価対象項目】 【共通】 <ul style="list-style-type: none">・施工基面が平滑に仕上げられている。・湧水、地表水の処理が適切で浸食、亀裂等がない。・ラス張工は、地山に均等になじむように張られ、浮いているところないように施工されている。・金網・ネット等が仕様書の通り施工され、仕上げ面から適正な間隔を保ち固定されている。・法肩の地山への巻き込みが適正に施工されている。・ネットの設置にあたり法面への固定方法が適切である。・地山表面の不純物の除去が確実に実施されている。・盛土の施工にあたり、法面の崩壊が起こらないよう締固めを十分行っていることが確認できる。 【種子吹付工、客土吹付工、厚層基材吹付工関係】 <ul style="list-style-type: none">・土壌試験を実施し、施工に反映している。・ネット等の重ね幅が10cm以上確保されている。・吹付け厚さが均等である。・吹付け厚さによって必要な場合、2層以上の吹き付けは、層を分けて施工していることが確認できる。・跳ね返り材料が適切に処理されている。・厚さによる2層以上の吹き付けでは、剥離がないことが確認できる。・種子の品質が適正なことが書類等で確認できる。・施工時期が定められた条件を満足していることが確認できる。 【コンクリート又はモルタル吹付工関係】 <ul style="list-style-type: none">・使用する材料の種類、品質及び配合が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。・金網等の重ね幅が10cm以上確保されている。・吸水性の吹付け面において、事前に吸水させてから施工していることが確認できる。・吹付け厚さが均等である。・吹付け厚さに応じて2層以上に分割して施工していることが確認できる。・跳ね返り材料が適切に処理されている。・法肩の吹付けにあたり、地山に沿って巻き込んで施工していることが確認できる。・金網が仕様書の通りに施工され、仕上げ面から適正な間隔を保ち固定されている。・金網等の設置にあたり、法面への固定方法が適切である。・水抜きパイプが適切に配置されている。 【現場打ち法枠工関係】 <ul style="list-style-type: none">・使用する材料の種類、品質及び配合が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。・アンカーの施工長さが確認できる。・現場養生が適切に行われていることが確認できる。・枠内に空隙がないことが確認できる。・層間にはく離がないことが確認できる。・跳ね返り材料が適切に処理されている。・アンカーが確実に固定されている。 【アンカー工】 <ul style="list-style-type: none">・ボルトの締付確認が実施され、適切に管理されている。・ボルトの締め付け機、測定機器のキャリブレーションを実施している。・アンカー施工までの定着具、テンドン等の保管管理が適正である。・アンカー等の組み立て、加工が適正で損傷、汚れがない。・グラウト注入のセメントミルクの品質、強度および充填確認が資料等により確認できる。・削孔の位置、削孔長、方向について確認できる記録が管理されている。・削孔内の洗浄が適切に施工され、スライムの除去が資料等で確認できる。・設計アンカーの耐力確保のためにジャッキの試験成績表に基づき、定着荷重の資料が整備されている。・材料・製品の品質・規格等がミルシート等により確認できる。					品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	

①「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。
②評価対象外項目の削除後は、削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値（評価値）で評価する。
③評価値（ %）＝該当項目数（ ）／評価対象項目数（ ）
④なお、削除後の評価対象項目数が3項目以下の場合はc評価とする。

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		ばらつきが小さい	ばらついている	ばらつきが大きい	
評 価 値	90%以上	a	a'	b	b
	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'
	60%以上75%未満	b	b'	c	c
	60%未満	b'	c	c	c

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目（評価値）だけで評価する。

(検 査 職 員)

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目（評価値）だけで評価する。

工事成績採点の考查項目の考查項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の・に○マークを記入する。

考 査 項 目	細 別	a	a'	b	b'	c	d	e																																		
3. 出来形及び出来ばえ II. 品質	コンクリート橋（P C及びR Cを対象）	☆ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ （関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験） ※ ばらつきの判断基準は別紙－4 参照 ☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがあり、ばらつきが大きい。	品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。																																		
		<div>【評価対象項目】 【共通】<ul style="list-style-type: none">設計図書に基づくコンクリートの配合試験または試験練りが行われており、適切なコンクリートの規格（強度・w/c・最大骨材粒径・塩化物総量等）が確認できる。（JIS A-5308以外の生コンを使用する場合）コンクリート打込み時の必要な供試体を採取し、強度・スランプ・空気量等が確認できる。（JIS A-5308以外の生コンを使用する場合）施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打込み時の投入高さ、パイプレーターによる締固、養生方法等、適切に行っている。（寒中及び暑中コンクリート等を含む）型枠、支保工の組立が適正で、コンクリート打込み後、取り外し時期がコンクリート強度等で適正に管理されている。鉄筋の規格・引張強度・曲げ強度の試験値をミールシート等で確認できる。コンクリート打込みまでの鉄筋の保管管理が適正であることが確認できる。スペーサーを適切に配置し、鉄筋のかぶりを確保している。鉄筋圧接作業にあたり、作業員の技量確認を行っている。鉄筋の組立・加工が適切であることが確認できる。重要構造物に係る主鉄筋について、引張試験曲げ試験を行っている。（平成19年6月12日付技第1007号）鉄筋の重ね合わせ長が、設計図書とおりであることが確認できる。コンクリート打込み時に雨水やわき水が適切に処理されている。コンクリートの現場養生用の供試体が当該現場のものであることが確認できる。コンクリートの打ち直しや補修の痕跡がない。コンクリート打込み前に打継ぎ目処理を適切に行っていることが確認できる。コンクリート及びセメントコンクリート製品の使用にあたりアルカリ骨材反応抑制対策の適合を確認している。（高炉B種・C種のセメントを使用したコンクリートの場合は評価対象から除外する）コンクリート打込み前に、単位水量試験または水セメント比試験を実施している。（平成20年3月14日付技第1037号）有害なクラックが無い。</div> <div>【製作関係】<ul style="list-style-type: none">製品の員数をはじめ規格の照合がミルシート等（現場照合を含む）で確認できる。作業実施前に装置（機器）のキャリブレーションが実施されている。スペーサーの材料が適正で、品質が確認できる。プレビーム桁フレクションで適正に実施されている。緊張及びグラウト管理が適切に管理されている。プレストレッシング時のコンクリート強度が最大圧縮応力度の1.7倍以上であることが確認できる。</div> <div>【架設関係】<ul style="list-style-type: none">支承の据付で、コンクリート面のチッピング及びモルタルでの付着が確認でき、仕上げ面に水切り勾配がついている。</div> <div><div>①「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ②評価対象外項目の削除後は、削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値（評価値）で評価する。 ③評価値（ %）＝該当項目数（ ）／評価対象項目数（ ） ④なお、削除後の評価対象項目数が3項目以下の場合はc評価とする。</div><table><tr><th colspan="2"></th><th colspan="3">ばらつきで判断可能</th><th rowspan="2">ばらつきで判断不可能</th></tr><tr><th colspan="2"></th><th>ばらつきが小さい</th><th>ばらついている</th><th>ばらつきが大きい</th></tr><tr><th colspan="2"></th><th>50%以下</th><th>80%以下</th><th>80%を超える</th><th></th></tr><tr><td rowspan="4">評価値</td><td>90%以上</td><td>a</td><td>a'</td><td>b</td><td>b</td></tr><tr><td>75%以上90%未満</td><td>a'</td><td>b</td><td>b'</td><td>b'</td></tr><tr><td>60%以上75%未満</td><td>b</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td></tr><tr><td>60%未満</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td><td>c</td></tr></table><div>注 試験結果の打点数等が少くばらつきの判断ができない場合は評価対象項目（評価値）だけで評価する。</div></div>							ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能			ばらつきが小さい	ばらついている	ばらつきが大きい			50%以下	80%以下	80%を超える		評価値	90%以上	a	a'	b	b	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'	60%以上75%未満	b	b'	c	c	60%未満	b'	c
		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能																																					
		ばらつきが小さい	ばらついている	ばらつきが大きい																																						
		50%以下	80%以下	80%を超える																																						
評価値	90%以上	a	a'	b	b																																					
	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'																																					
	60%以上75%未満	b	b'	c	c																																					
	60%未満	b'	c	c	c																																					

 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。 | 上記該当あれば……d | 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が⁴修補（手直し）指示を行った。 | 上記該当あれば……e |

工事成績採点の考查項目の考查項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の・に○マークを記入する。

考 査 項 目	細 別	a	a'	b	b'	c	d	e
3. 出来形 及び 出来ばえ II. 品質	トンネル工事	☆ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ （関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験） ※ ばらつきの判断基準は別紙ー4 参照 ☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがあり、ばらつきが大きい。	品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。
		<div>【評価対象項目】 【共通】【無筋】<ul style="list-style-type: none">設計図書に基づくコンクリートの配合試験または試験練りが行われており、適切なコンクリートの規格（強度・w/c・最大骨材粒径・塩化物総量等）が確認できる。（JIS A-5308以外の生コンを使用する場合）コンクリート打込み時の必要な供試体を採取し、強度・スランプ・空気量等が確認できる。（JIS A-5308以外の生コンを使用する場合）施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打込み時の投入高さ、パイプレーターによる締固、養生方法等、適切に行っている。（寒中及び暑中コンクリート等を含む）鉄筋の規格・引張強度・曲げ強度の試験値をミールシート等で確認できる。コンクリート打設までの鉄筋の保管管理が適正であることが確認できる。日々計測管理を行っており、それに基づいた施工が行われていることが確認できる。型枠、支保工の組立が適正で、コンクリート打込み後、取り外し時期がコンクリート強度等で適正に管理されている。コンクリートの打ち直しや補修の痕跡がない。コンクリート打込み時に雨水やわき水が適切に処理されている。コンクリートの現場養生用の供試体が当該現場のものであることが確認できる。鉄筋の組立・加工が適切であることが確認できる。スペーサーを適切に配置し、鉄筋のかぶりを確保している。鉄筋圧接作業にあたり、作業員の技量確認を行っている。重要構造物に係る主鉄筋について、引張試験曲げ試験を行っている。（平成19年6月12日付技第1007号）鉄筋の重ね合わせ長が、設計図書とおりであることが確認できる。コンクリート打込み前に打継ぎ目処理を適切に行っていることが確認できる。コンクリート及びセメントコンクリート製品の使用にあたりアルカリ骨材反応抑制対策の適合を確認している。（高炉B種・C種のセメントを使用したコンクリートの場合は評価対象から除外する）コンクリート打込み前に、単位水量試験または水セメント比試験を実施している。（平成20年3月14日付技第1037号）施工中の地質・湧水の状況、支保工や覆工の変状等を観察・記録し適切な対処がなされている。現場でのセメント及び混和剤等の保管管理では、防湿性の高いサイロ及び倉庫で管理されている。有害なクラックが無い。設計図書に定められた岩区分（支保工パターン含む）の境界を確認して施工を行っていることが確認できる。</div> <div>【掘削】<ul style="list-style-type: none">掘削は、地山を緩ませないように、かつ出来る限り滑らかに仕上げ、支保工との間隙（余掘）が少ないように施工している。爆破後の掘削面のゆるんだ部分や浮き石を丁寧に除去している。</div> <div>【支保工】<ul style="list-style-type: none">金網の継ぎ目を15cm（1目）以上重ね合わせていることが確認できる。吹き付けコンクリートは浮き石等を除いた後に、15cm以下の厚さで地山と密着するよう施工されている。吹き付けコンクリートの打ち継ぎ部の施工では、清掃及び潤滑状態が確認できる。ロックボルト挿入前にくり粉除去の清掃がなされている。ロックボルトの引き抜き耐力の確保のために孔荒れることがないように丁寧な施工が行われている。ロックボルトの定着長が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。吹付コンクリートの配合及びロックボルトの種別、規格が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。設計図書とおりに鋼製支保工の間隔が守られている。鋼製支保工の立て込み設置が良好で、吹き付けモルタルとの隙間がなく、丁寧な施工がうかがえる。</div> <div>【覆工】<ul style="list-style-type: none">逆巻の場合、側壁コンクリートとアーチコンクリートの打継目が同一線上にないことが確認できる。防水シートの品質・形状が設計図書とおりになっている。防水シートの溶着を確実にし、湧水やひび割れのないコンクリートの仕上がりが確認できる。防水工に防水シートを使用する場合は、ロックボルト等の突起物にモルタルや保護マット等で防護対策を行っていることが確認できる。インパートは、打ち継ぎ目に注意した施工が実施されている。湧水処理対策として埋設される排水材が的確に施工され機能している。覆工コンクリートは打設時に型枠に変圧を与えていないことが確認できる。巻き立て補強鉄筋は、所定のカブリが確保されている。</div>					品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補（手直し）指示を行った。
		<div>①「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ②評価対象外項目の削除後は、削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値（評価値）で評価する。 ③評価値（ %）＝該当項目数（ ）／評価対象項目数（ ）</div>						

| | | | | | | | | ばらつきで判断可能 | | | ばらつきで判断不可能 | |-----|------------|-----------|---------|----------|------------| | | | ばらつきが小さい | ばらついている | ばらつきが大きい | | | | | 50%以下 | 80%以下 | 80%を超える | | | 評価値 | 90%以上 | a | a' | b | b | | | 75%以上90%未満 | a' | b | b' | b' | | | 60%以上75%未満 | b | b' | c | c | | | 60%未満 | b' | c | c | c | | | |

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目（評価値）だけで評価する。

